

第 15 回災害支援訓練

実施報告書

広域一般廃棄物事業協同組合

第 15 回災害支援訓練実施報告書 広域一般廃棄物事業協同組合

日 時：平成 29 年 10 月 21 日（土）8：50～12：10

場 所：①集合場所…小田原市諏訪原（トレープラスチック減容施設の隣り）

②派遣場所…広域避難所となる前羽小学校、下中小学校、下曾我小学校、曾我小学校、下府中小学校、国府津小学校、酒匂小学校、富士見小学校、矢作小学校、豊川小学校、千代小学校、久野小学校、大窪小学校、早川小学校、三の丸小学校、町田小学校、山王小学校、新玉小学校、桜井小学校、報徳小学校、東富水小学校、芦子小学校、足柄小学校、富水小学校、片浦小学校の 25 箇所

参加者：神奈川県 2 名、小田原市 6 名、南足柄市 1 名、箱根町 2 名、開成町 1 名、協力会社 1 名、広域一般廃棄物事業協同組合 41 名

趣 旨：災害時における一般廃棄物災害収集に関する協定を締結している中で、災害が発生した際にスムーズな対応ができるかどうかを確認し、かつ、災害応急対策に対する相互理解を深める。

想 定：平成 29 年 10 月 20 日（金）15 時に発生した地震（震度 7）の影響により、小田原市が被災し、市内の避難所設置による仮設トイレの汲取りと避難所ごみの収集、震災ごみ増加・道路事情悪化により家庭ごみの収集・運搬に支障をきたしているという想定のもと、災害応急対策を行う。

概 要：緊急連絡網による連絡訓練、応援要請から参集訓練、避難所への派遣訓練までを行う。

内 容：避難所ごみについて、発災直後の混乱のため可燃ごみと不燃ごみにのみ分別しているという想定で、それぞれ分別して収集する。仮設トイレは、組合の提案した場所にせっちされているものと想定してバキューム車で収集する。収集した廃棄物は、処理場まで搬入をする。

また、災害時は現場での連携が重要と考え、避難所担当職員と連合自治会長とのコミュニケーションを主要テーマとする訓練を行う。

主な使用機材：

- ①バキューム車 4 台
- ②仮設トイレ運搬車 10 台
- ③仮設テント（3m×3m）1 張
- ④音響設備（ポータブルワイヤレスマイク）1 機
- ⑤白板 1 枚
- ⑥非常食セット 32 個
- ⑦地図（道路地図、明細地図）
- ⑧机 1 枚
- ⑨椅子 3 脚

備 考：

タイムテーブル

10月20日（金）

- 15:00 小田原市に震度7の地震発生。
- 15:20 小田原市環境部からの応援要請に基づき、組合員へ応援要請。
- 16:00 組合の支援体制を小田原市に連絡。

10月21日（土）

- 9:00 全派遣班、集合場所に到着（小田原市諏訪原 トレープラスチック減容施設横）
司会進行 加藤副理事長
開会挨拶 鈴木理事長
参加者紹介
訓練行程説明
小田原市から応援要請の内容説明
 - ・市内25箇所の広域避難所設置とそれに伴う仮設トイレ汲取り、ごみ収集及び仮設トイレ設置班編成（2班体制とする。第1班を稲葉班長、第2班を勝俣班長が担当）
責任者会議（高橋統括、稲葉班長、勝俣班長、小田原衛生担当者）
班別ミーティング
 - ・市内状況説明
 - ・運行計画作成、作業指示
- 9:20 作業チームごとに広域避難所へ移動
- ～11:30 避難所担当職員及び連合自治会長との連携・連絡
- 11:35 訓練終了式
班別に派遣訓練結果を報告
視察コメント 神奈川県 池田主任技師
関係機関挨拶 小田原市環境部 鳥海部長
講評 鈴木理事長
- 12:10 訓練場所清掃、後片付け
解散

現地案内図

小田原市諏訪原地内



現地災害対策本部

訓練状況

開 会



環境部から指令を受ける



第1班ミーティング



訓練状況

第2班ミーティング



災害支援車両

バキューム車 4台
塵芥車 10台



広域避難所に向けて
順次出動



訓練状況

広域避難所に到着し、避難所担当職員を探す



避難所担当職員に連合自治会長を紹介して頂く



避難所担当職員にサインを頂く



訓練状況

扇町クリーンセンターでし尿の計量方法と排出方法について説明を受ける



小田原市環境事業センターで職員から計量方法の指導を受け、可燃ごみは焼却炉へ不燃ごみはリサイクルセンターへ誘導



リサイクルセンターのピットへ排出



訓練状況

小田原市環境部長より挨拶をいただく



ご出席いただいた行政機関を代表して神奈川県環境農政局から感想のコメントを頂く



理事長より講評



避難所開設に備えた災害支援訓練を実施



10月21日、県西部を中心にゴミ収集・廃棄物委託業者が組織する「広域一般廃棄物事業協同組合」(鈴木茂理事長)と小田原市は災害支援訓練を実施した。この訓練は大地震で小田原が被災した際、市内の避難所において、仮設トイレの設置やゴミ収集などをスムーズに行い、衛生環境を守るためのもの。15回目となる今回は、悪天候にもかかわらず、県内から12社が参加。パッカー車やバキューム車が9つの班に分かれて、広域避難所となる小学校25カ所に赴き、し尿やゴミの収集にあたる想定で訓練を行った。

当日は、小田原市いっせい防災訓練も開催され、各小学校で避難所を開設。連合自治会が、消火や応急救護などの訓練を実施している中、同組合の担当者が市の職員や自治会長にゴミの有無や集積場所の確認を行った。



鳥海義文小田原市環境部長

「今回の訓練では、組合と市の職員、連合自治会との連携がスムーズになった。大規模な災害時は避難所の住民対応が課題となってくる。よりつながりを深めて、迅速に処理できる体制を整えていきたい」



鈴木茂理事長

「市の職員、連合自治会長、地域住民の方とのコミュニケーションを重視した上で、訓練を行っていきたい。し尿やごみの処理について避難所で不快な思いをしないよう、今後も提案を行っていきたい」

